P・M 創刊号 出来!!

プロレタリア歌曲集

三月

発刊に際して

★ P・M神奈川支準備委員部 ★

パリ・コムミエン戦士等の血に染められた三月。一昨年は三月の殺戮が。そして今年、マルクス生誕百年祭を迎へ、マルクス主義の一大普及運動を遂行すると共に、戦争と絶対カンパルリを逆に、戦争と絶対反対の帝国主義日本に於ける、創刊号お届けの帝国主義日本に於ける、人民大衆への情勢の切迫の中で、大衆の組織的闘争を指導する義務づけられてゐる三月。又、逆らふべくもない二月二十日、メーデーを迎へ、そしてメーデーを目前に控へた党の作家、同志小林多喜二の虐殺を組織すべきこの月。

同志諸君！三月を銘記せよ。此の理解し、而して進撃に立ち上れ。マルクス・レーニン主義の鉄の武装をもつて！

我々の「三月」の歌を、高く〳〵斗争のたゞ中に響かせよう！

一九三三年三月二十日。

読め！

P・M 神奈川支準責任額二五円

★ 大衆的に基金を送れ！

現在までの應募額 一四円八十五銭也

P・M 創刊号 出来!!

プロレタリア歌曲集

三月

P・M 神奈川支準備委員部 編

定價二〇銭

三月十九日発賣

P・M 横浜誌

創刊号

後記（歌曲集「三月」略解）

歌曲集は三月に収録した八篇の歌曲のうち、「二月二十日」「マルクス、レーニンおよびスターリンの二篇は神奈川支部の作曲部の同志和田節造（現労音の会員）に、他は東京支部の創作グループの同志山城鉄雄（現労音の会員）に作曲を依頼したものである。「二月二十日」「マルクス、レーニンおよびスターリン」は発表されなかったものばかりである。

「二月二十日」「マルクス、レーニンおよびスターリン」（一九三三年三月作）の作曲者同志山城鉄雄は、作曲後間もなく山形の労働者の間に入って行ったが、その間、同志和田節造はこの歌曲創作グループの同盟員として、その作品の価値如何について、また、その作品の問題点について、いろいろと教えてくれた。

「並列リレの一篇は未発表の農民音楽の分野への新しい試みである。農民音楽の重要な課題を提起している。最近の傑作とともに推賞するに値する。

「仿く婦人の歌」（一九三二年二月作）は雑誌「働く婦人」出版記念のために作られたもの。（ト・ル・ボ・ワ同盟音楽会初演。原曲は二部合唱曲で、編曲は三部合唱曲である。）

「五月一日」（一九三一年五月作）は、メーデーに近づくにつれ、ますます盛り上がる労働者階級の闘争気分を表現したものである。

「五月一日の朝」（一九三二年五月作）は、メーデー歌としては、ややもすれば、ありふれた行進曲調になりがちなのを、この曲は、ユニゾンの旋律と、ピアノの伴奏とが、互いに対立しながら、しかも、全体として、一つの統一ある曲調を作り出している。

「五月一日の朝」（一九三二年五月作）は、メーデー歌としては、ややもすれば、ありふれた行進曲調になりがちなのを、この曲は、ユニゾンの旋律と、ピアノの伴奏とが、互いに対立しながら、しかも、全体として、一つの統一ある曲調を作り出している。

「五月一日の朝」（一九三二年五月作）は、メーデー歌としては、ややもすれば、ありふれた行進曲調になりがちなのを、この曲は、ユニゾンの旋律と、ピアノの伴奏とが、互いに対立しながら、しかも、全体として、一つの統一ある曲調を作り出している。

「五月一日の朝」（一九三二年五月作）は、メーデー歌としては、ややもすれば、ありふれた行進曲調になりがちなのを、この曲は、ユニゾンの旋律と、ピアノの伴奏とが、互いに対立しながら、しかも、全体として、一つの統一ある曲調を作り出している。